

東海大学札幌キャンパス 福祉除雪プロジェクト

地域の高齢者世帯を、 大学生がボランティアで雪かき

でかちやれ福祉
除雪プロジェクト
のぼり



大学が支援する「でかちやれ」

「除雪のことで困っている近隣のおじいちゃん、おばあちゃん。僕たちが力になります！おまかせください」と、東海大学札幌キャンパスの福祉除雪プロジェクトの学生74名が、除雪を通じて高齢者をサポートし、コミュニケーションを図っています。

そもそものきっかけは2008年4月に北海道東海大学が東海大学に統合され、当時2年生だったリーダーである池田翔さん（国際文化学部国際コミュニケーション学科4年）が、学内の掲示板で「でかちやれ」を知ったことに、東海大学付属第四高校時代からの友人でサブリーダーの林信太郎さん（国際文化学部地域創造学科4年）など現在の中心メンバーが、「大学生活で何かやってみよう。挑戦してみよう」と新しい世界に一歩足を踏み出したことに始まります。

この「でかちやれ」とは、東海大学のチャレンジセンターが「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」をキーワードに、学生が将来社会で活躍するために必要な力を育成し、支援していこうというものです。参



国際文化学部
国際コミュニケーション学科4年
池田 翔さん



国際文化学部
地域創造学科4年
林 信太郎さん

加するには様々な条件をクリアしなければならず、他学部、他学年の学生30名が揃わなければ認められません。池田さんたちは「北海道だから雪に関係するプロジェクトがいいだろう。それをボランティアでやってみたらどうだろう」と閃きましたが、友人を通じて

の人集めや自分たちの考え方を大学側にアピールするプレゼンテーションに向けての準備など、これまで経験してこなかったことが次々と目の前に。正直戸惑いの連続だったそうですが、それでも仲間と意見を交わし、取りまとめ、無事スタートし軌道に乗せることができました。

心のふれあいが芽生えて

対象エリアは札幌キャンパスが札幌市南区南沢にあることから、南沢、北ノ沢、中ノ沢、川沿地区の70歳以上で構成されている高齢者世帯などで、立ち上げた当初は22,3世帯でしたが、3年目の2010年度は58世帯の申し込みがあります。告知は町内の回覧板などで、口コミでも広がり、地方にいるなどして同居していない息子や娘からも親の

ことを心配して依頼が入るといいます。出勤回数はその年の雪の量によって異なり、例えば2009年は約50回。期間は雪の降り始めから3月の10日前後。除雪が必要になってくると事前に申し込んだ高齢者が大学側に連絡し、「でかちやれ」を管轄する北海道研究支援課が学生にメールします。学生の本分は学業ですから、授業が終了してから大学のマイクロバスに乗り込み、高齢者宅へ。プロジェクトはグループ分けされており、依頼の状況によって出勤体制を整えています。なお、除雪で使用するスコップやベンチコート、プロジェクト用の部屋や筆記具等は大学側で支援しています。

これまで同年代と接することがほとんどで「年齢が離れた高齢者とどう接していいのか分からず、最初はおっかなびっくりでした。それでも、だんだんと心が通い合うようになり、こういう係わりも面白いと思うようになりました。感謝の気持ちをいただくのも、うれしい」と林さん。

力仕事が苦手な女子は広報に携わる機会も多く、カメラを持って現場にかけつけます。吉田愛美さん（国際文化学部国際コミュニケーション学科4年）は「おじいちゃん、おばあちゃんが、おはぎや温かいココアを用意して、孫のようにかわいがってくれま



国際文化学部
国際コミュニケーション学科4年
吉田 愛美さん

す。除雪だけでなく、話し相手として訪問を心待ちにされている方もいるようです。わたしは先日“今度、一緒に温泉に行きましょうよ”って誘われ（笑）、活動を通じて人と人とのつながりが深まっていると感じています」と話します。

防犯など活動も多岐に

このプロジェクトは冬期間の除雪に限らず、引越し作業の手伝い、ゴミの搬出、移動、庭の土起こし、庭木の枝木切り、災害時避難訓練など幅広いボランティア活動を行っています。さらに北海道との連携により大学生ボランティアサミットネットワークを設立し、同大学は代表幹事校になっています。2009年を振り返ると、高橋はるみ北海道知事と

の座談会に出席、「安全・安心まちづくりシンポジウム」（北海道警察主催）での発表、南警察署長表敬訪問、南区長表敬訪問、すすきの防犯パトロールなど、除雪以外のイベントも目白押しでした。最近では防犯面での活動も目立ってきており、2011年1月15日には、北海道警察本部の依頼で、北海道代表としてヤングボランティアサミット全国大会（警察庁主催）へも出席しています。池田さんは「何百人という大勢の前で話をする機会が増え、たいへん良い経験をさせていただいていると思います。僕らが暮らす札幌の街が安心、安全な街になるよう、少しでもお手伝いをさせていただきたいですね。これからは後輩たちが、より活動を充実させていけると確信しています。頑張ってもらいたいです」と、先輩としてのメッセージも忘れていませんでした。



除雪風景

